

■除草剤：農業用

# ハーモニー<sup>®</sup>75DF水和剤

登録番号：18081  
 毒性：－  
 消防法：－  
 有効年限：4年

成分 チフェンスルフロンメチル……75.0%  
 物理的・化学的性状 淡褐色微粒及び細粒

包装：(10g×30)×4 (50g×10)×4

## ◆特長

- 生育期のギシギシに対して、根まで枯らす優れた効果を発揮します。
- 牧草に対し、春～秋まで幅広く使用できます。
- 小麦の春処理で、イヌカミツシなどの難防除雑草に優れた効果を発揮します。

## ◆適用と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	チフェンスルフロンメチルを含む農業の総使用回数
				薬量	希釈水量				
小麦	－	一年生広葉雑草	春播栽培の 小麦3～5葉期	3～5g /10a	100ℓ /10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	北海道	1回
		ギシギシ類	秋播栽培の 幼穂形成期	7.5～10g /10a					
		一年生広葉雑草	但し、収穫 45日前まで						
		一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	は種後～ 節間伸長前	5～10g /10a				全域 (北海道を除く)	
		一年生広葉雑草	節間伸長開始期 ～穂ばらみ期 但し、収穫 45日前まで	3～5g /10a					
		カズノコグサ	麦1葉期～ 節間伸長前	10g /10a					
大麦	－	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	は種後～ 節間伸長前	5～10g /10a					
牧草	牧野、 草地	一年生広葉雑草 ギシギシ類	採草21日前まで (雑草生育期)	3～5g /10a					
			新播草地定着後 但し、採草 21日前まで	0.5～1g /10a					
飼料用 とうもろこし	－	ギシギシ類	飼料用 とうもろこし 2～4葉期 (雑草生育期)	2g /10a					

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

## ◆注意事項

- (1) 所定量の薬剤を所定量の水に加え、よくかき混ぜてから均一に散布すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 調製した薬液は速やかに使用すること。
- (4) 本剤を連年施用するとスズメノテッポウに効果が劣ることがあるので、有効な薬剤との組み合わせ、または輪番で使用すること。
- (5) 麦類に使用する場合、
  - 1) 必要に応じて展着剤を加用すること。
  - 2) 単用処理の場合は、10アール当たり7.5～10gでの使用が望ましい。
  - 3) 体系処理の場合は、土壌処理剤との体系処理で使用する。
  - 4) 小麦（春播）に使用する場合は、イネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草に有効な土壌処理剤との体系で使用する。
  - 5) 本剤の散布適期はスズメノテッポウ5葉期まで、カズノコグサ1～3葉期であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失ないように散布すること。
- (6) 牧草に使用する場合、
  - 1) 本剤はクローバに薬害を生じるので、これらの牧草には使用しないこと。
  - 2) 本剤は茎葉処理剤なので、ギシギシの葉が展葉してから散布を行うこと。
  - 3) 本剤の散布後21日間は採草及び放牧を行わないこと。
  - 4) 一年生牧草に使用する場合は薬害の恐れがあるため、一年生牧草の5葉期以降に使用すること。
  - 5) 多年生牧草の新播草地では薬害の恐れがあるため、0.5～1gの薬量で使用する。
  - 6) 0.5～1gの薬量で使用する場合は、実生以外のギシギシ類には効果が劣るので、実生のギシギシ類に対して使用すること。
  - 7) 本剤の新播草地定着後の散布適期はギシギシ類草丈20cm以下であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失ないように散布すること。
  - 8) 新品種および新草種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - 9) 夏処理については、イネ科牧草についても生育抑制がみられることがある。
  - 10) アルファルファでの使用は経年草地及びイネ科混播草地に限る。
- (7) 飼料用とうもろこしに使用する場合、
  - 1) 有機リン系殺虫剤との混用および7日以内の近接散布は、薬害を生じることがあるのでさけること。
  - 2) 薬害を生じるおそれがあるので必ず所定量及び使用時期を守り、均一に散布すること。
- (8) 砂土では使用しないこと。
- (9) 散布直後に降雨が予想される場合は使用をさけること。
- (10) 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害を生じることのないように十分注意して散布すること。なお、必要に応じて飛散防止ノズルを使用して散布すること。
- (11) 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内外に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く水でよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、薬害の原因にならないように注意すること。
- (12) 散布器具や容器の洗浄水は河川等に流さず、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◆**安全使用上の注意**

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。  
使用後は洗眼すること。

◆**魚毒性**

この登録に係る使用方法では該当がない。